

大阪・日本橋をトラムの似合うまちに

日本橋にトラムを通してにぎわいを進める会 中村俊策
shunsaku1956ramenkaidou@i.softbank.jp

はじめに

大阪・日本橋にトラム（LRT）を通す活動を始めて10年になる。この始まりと『トラムさえ通せばよい』から『トラムの似合うまちに』と変遷してきた私たちの心の旅路を振り返るとともに、今後の活動の方向性を展望したい。

な説明を受けた我々は、地元商店街の方々とも交流を深めた。そんな席上で



1. 日本橋にLRT構想がやってきた

2013年1月、読売新聞に「天王寺～難波路面電車15年度着工へ」という記事が掲載、同6月に大阪府の担当者が日本橋に説明にやってきた。大阪府市が策定した『グランドデザイン・大阪』という構想に「なんば・天王寺LRT」が記載されていたのだ。

『LRTが通っても郊外のショッピングセンター立地によって商店街は依然として苦しい状況』と聞いた我々は「トラムが通っただけではだめで、魅力あるまちにしないとトラムは素通りしてしまうだけ」と知ったのだった。

3. まちづくりの勉強を始めた

2015年12月、関西大学環境都市工学部の岡絵理子先生を招いて初めてのワークショップを開催。題して『話そう、日本橋のまちのこと～トラムの似合うまちって何だ？』



2. 富山遠征でわかったこと

商店街活性化の決め手としてLRT誘致を推進することとなり、2014年10月商店街の有志により「日本橋にトラムを通してにぎわいを進める会」が発足、まずは富山視察に赴いた。



岡絵理子先生と蘇建源会長



2015年5月 ヴァンソン藤井由実さん 2014年11月 関西大学 宇都宮教授

現地のLRTを視察し富山市役所でも丁寧

【ウサギさんチーム】

- ・きれいなまち。ややこしいまちはアカン
- ・市電を復活し、メインストリート堺筋も復活
- ・年中ホコ天にして、鹿児島のような芝生を
- ・アーケード、ショッピングマップ、アニメ村、電子工作教室 という流れを継承
- ・ポップカルチャーなど芸術文化の発信地に

以降、毎年のようにワークショップを開催。



関大生が見た
日本橋のまち

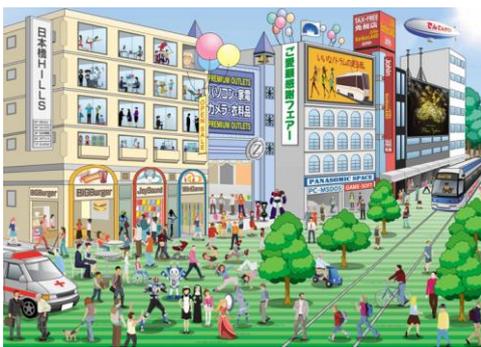
2016年 8月



4. 『日本橋まちづくり構想』をつくった

このような取組みをもとに2018年5月、日本橋まちづくり構想（たたき台）を策定。3つのコンセプトを提示した。

- 最先端の趣味という多様なコンテンツ・文化を発信するまち
- 来訪者も商売人も、住人にとっても居心地のよいまち
- グレーターなんばの中心に位置する日本橋～なんば・天王寺・あべの 一体化
→トラム導入による飛躍的な回遊性向上



5. だが、トラム実現のめどがたたない

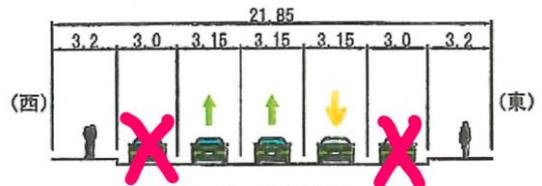
まちづくりと並行して行政に対して要望活動や議会での質疑を重ねているが、大阪市は①道路が混むから導入不可②直下に地下鉄が走る状況では採算性確保が困難として先行きが見えない状況である。

6. 日本橋をトラムの似合うまちに

(1) まずは、歩いて楽しい空間に



堺筋の駐車レーンを活用し歩道を拡幅したい。



(2) マンションやホテルの一階を商店に

現状は任意のお願いをしているが、地区計画や建築協定による強制力のあるルールづくりを検討中。まずは商店街振興組合の定款に明記。



(3) マンション等も商店街組合に加入を

区域内の商店は府条例により加入が義務化されているが、マンションやホテルにも組合に加入してもらい商店街振興を確かなものにした。

おわりに

『たいへんな回り道をしているな』と思われるかもしれないが、そこは『急がばまわれ』。商店街のアーケードの維持補修をはじめ日々の清掃、防犯カメラの管理、夜間防犯パトロールなど地道な活動を積み上げることで、誰もが訪れたい日本橋筋商店街となり、文字通り『トラムの似合うまち』となる日が必ず来る、と信じている。

